

[東洋の古代美術展に寄せて]

大和文華館の花々と古美術

厳しい冬の寒さに耐えて、梅の花が満開となる2～3月頃から、文華苑にも早春が訪れ、約1万坪の庭に、花々が競うように咲き始めます。花の季節の到来です。

自然苑の中に自生し、また植栽によって咲く花々は、保安部の大平良一氏が1997年に作成した表によれば、150余种が挙げられています。本誌の随想欄に寄稿された吉川逸治前館長夫人マリ氏が嘆かれていられるように、足元の愛らしい山草は見られなくなりましたが、主に樹木類はまだ美しい装いを季節毎に見せてくれます。この広い苑の樹々は、代々の保安部の人々の手によって、日夜、丹精込めて守られ育てられて来たものです。

このような美しい自然の中で美しいもの（古美術＝文化の華＝文華）を鑑賞することが、初代矢代幸雄館長の掲げた美術館の姿勢で、以来40年間、それが守られて来ました。今では、紅・白梅の梅林や「梅の小道」も整えられ、「鶯宿」、「道しるべ」、「鹿兒島紅」などの珍しい品種が目を楽しめます。早春の花は他に密蠟のような薄黄色の花びらをつける蠟梅や、濃い真紅の花をつける椿が忘れられません。3～4月になると、雪柳が弾

力を帯びたしなやかな細い枝に小さな白い花をびっしりとつけ、蓮翹が伸びやかな枝にうつむきかけんの黄色の花を咲かせます。毎年、本当の春の訪れはこれらの花が知らせてくれます。小鳥のような白・紫木蓮、明るい紫色のミツバツツジ、大木に白い花のスモモ、薄紅・白のハナミズキ、八重山吹。4月の花にはこと欠きませんが、何と言っても主役は桜。三春桜、大山桜、染井吉野、飾り玉のような八重桜と種類も豊富で、昔から人の心を浮き立たせます。4月の最後を飾るのは大木の菊桃や緋桃で、その鮮かな色は目に染みます。5～6月は黄色の花もつける菖蒲、ヤマボウシ、ハコネウツギ、そして、文華苑の名物ササユリが林の中のあちこちに楚々とした姿をのぞかせます。梅の実の実る頃アジサイが雨に打たれて何と微妙な色どりに変化することか。7～8月は泰山木、ネムノキ、水蓮、ムクゲ、ヤマユリ、キキョウ。濃い朱色の花をつけて樹にはい登るノウゼンカヅラが夏の盛りを高揚させます。9月、秋の気配を覚える頃、彼岸花が炎のように燃え、ピンク、薄紫、クリーム色の別種も珍しいものです。万葉集で最も多く詠われた萩（赤・白）もこの苑に相応し

く、一年の最後、10～12月は花に替って紅葉の赤や黄、蕪の赤が目にもまぶしく、ピンクのサザンカが3月までの息の長い開花を見せてくれます。

花々は文化の華である古美術にも様々な意味を象徴するものとして登場します。蓮華は泥中より出て清浄な花を開くことから仏教では解脱を象徴し、仏像の台座となりましたが、当館の刺繍五髻文殊菩薩像（鎌倉・重文）では、文殊の掲げる蓮枝の蓮台の上に仏の教えの表われである経典を乗せ、国宝の一字蓮台法華経（平安）では、経文の一字ずつを仏と相当のものと見て彩色の蓮台に乗せています。金銅磬（鎌倉・重文）は形そのものが蓮華形です。仏教美術以外に青磁彫花瓶（北宋）、辰砂面取瓶（朝鮮）に生々と、また、青磁象嵌細口瓶（高麗）や粉青象嵌扁壺（朝鮮）には水禽や魚と共に描かれています。蓮華は花と実を共につけて繁茂することから豊饒のシンボルともされ、夫婦和合を示す二羽の水禽や、多数の粒状の卵を生むことから豊かさや子孫繁栄の象徴とされる魚との組み合わせは吉祥の文様です。仏教の華でも宝相華は全くの空想の花として銀製鍍金大碗（唐）に展開します。シルクロード伝来の葡萄と唐草も豊かさを象徴します。葡萄はその実の多数により、また、ワインの原料である故に。唐草は連続と続く蔓が生命力や子孫繁栄を暗示する故に葡萄唐草、石榴唐草、蓮華唐草となって。瓜や瓢箪など蔓性の

ものの多くが同様の意味を持たされています。葡萄は黄釉水注（唐）や鉄砂大壺（朝鮮）、婚礼道具であるかも知れぬ螺鈿衣裳箱（朝鮮）に、葡萄唐草は銅製八稜鏡（唐）に現われ、この鏡では、葡萄唐草の中でライオンが遊び、楽園のイメージをも含んでいます。日本の蒔絵鏡裏では鳳凰唐草に変容していません。萱草遊狗図・蜀葵遊猫図（宋・重文）のカンゾウは女性が身に帯びると男子を生むという子孫繁栄の意味、蜀葵の下で猫が蝶に戯れる図は長寿を示すとされます。富貴の花としての牡丹は赤絵小壺（南宋）、青磁梅瓶（高麗）、鎌倉彫大合子（室町）を優雅に飾っています。四君子とされる菊・梅・竹・蘭や歳寒三友の松・竹・梅も単独に、またそれぞれの組合わせで、蒔絵の机や扇面貼交の手筈、色絵の大壺、水墨画などに盛んに表わされます。桜、藤、そして尾花（薄）や柳も、物語絵や金工、乱宮、屏風などに、絵画的に、文様的に登場します。

そして、最後に再び仏教美術の花が以上の象徴的な花の意味を代弁しているように思えます。それは笠置曼荼羅図（鎌倉・重文）の中の赤い花、仏前の燈籠の前に生えて超自然的に大きく描かれたナデシコのような花です。弥勒仏への供養花の代用であって、信仰者の強い祈りが込められたものです。思えば、以上のように見て来ました数々の花も、この供養花のように人々の赤々とした祈りの心を象徴していると言えるのではないのでしょうか。（村田靖子）

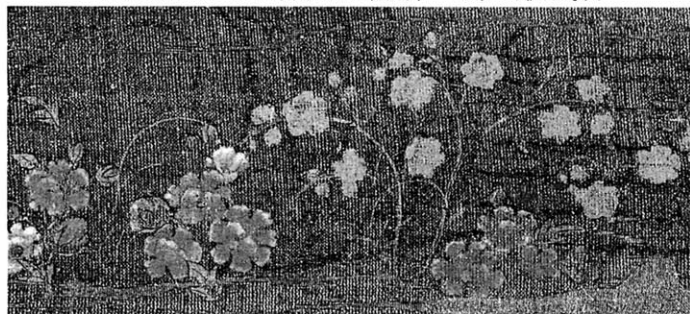
ササユリ



重要文化財 金銅蓮華形磬 日本・鎌倉時代



重要文化財 笠置曼荼羅図(部分) 日本・鎌倉時代



季刊 美のたより No.127

平成11年 5月20日

発行 大和文華館